複数の薬剤を組み合わせたイネカメムシ防除体系の確立
～イネカメムシ殺虫剤抵抗性獲得を抑制するために～

１　普及活動のねらい

海部地域では、令和５年度に薬剤抵抗性のあるイメカメムシの発生により大きな被害を受けたが、令和６年度は薬剤を変更することにより被害を抑えることができた。今後、当該薬剤の連用が続くと、再び抵抗性が獲得されてしまうことが懸念される。そこで、複数の剤を組み合わせた防除体系（１回目Ａ剤（IRAC コード４Ａ）、２回目Ｂ剤（IRAC コード４Ｃ））を管内３カ所で検討した。



写真：イネカメムシ成虫

２　普及活動の成果

複数の薬剤を組み合わせたイネカメムシ防除の効果が明らかになった。

本結果を理解し、２回目散布時に発生が見られる場合、１回目と異なる系統の薬剤を使用する意向を示した。また、Ｂ剤にＡ剤同等の防除効果があることを再認識した。また、２回目を散布する基準があると良いという意見が出た。

３　普及活動の内容

（１）部会・研修会や個別巡回時に、農家と薬剤の組み合わせを検討した。

（２）管内３カ所で２回散布ほ場を設置した。

（３）発生状況及び被害状況を調査した。１回目Ａ剤散布後、２回目のＢ剤散布後も防除効果は高く、捕獲数は０頭であった。イネカメムシの異常発生は認められなかったことから、薬剤の感受性低下はなかったと考えられた（試験場で管内のイネカメムシを採取し、薬剤感受性試験を実施。Ｃ剤（令和５年多発時に感受性低下が認められた剤）を除き、どちらの剤も感受性低下は認められなかった）。イネカメムシによる不稔は認められず、斑点米率も０％であった。



写真：防除打ち合わせの様子

（４）発生状況調査や被害調査の結果もとに、個別巡回時に次年度以降のイネカメムシ防除の方法の検討について支援した。

重点課題名	２　海部地域の水田作を担う経営体の安定維持
普及事項名	（１）　複数の薬剤を組み合わせたイネカメムシ防除体系の確立